

事業名

地域に根付く人づくり

目標

安全で安心して暮らせる 魅力ある 美しい 街づくり**1. 取組の視点**

本地区は、奈良市西部地域の人口増加に伴い、その解消として開発され、学研奈良登美ヶ丘駅も完成し、隣接地での大型店舗の営業と共に各種商業施設が造られ、街としての形が出来つつあるが、開発は止まることなく、次々と新しい地区が出来てきています。新しい地区には自治会組織がないなど、地域コミュニティーが確立されていません。一方、近隣の団地や開発当初の地域では高齢者が増加しています。したがって、地域活動の基盤が脆弱で自治会活動をはじめ大きな負の影響が表れています。このような環境の中で、学校と地域・家庭が共働しながら、学校が地域コミュニティーの中心として、「安全で安心して暮らせる魅力ある 美しい街づくり」を念頭に、各校園の環境整備等の取組を支援すると共に地域防災について考え、地域及び学校の活性化を図ります。

2. 取組の概要

環境整備事業として各校園では、校内及び学校周辺の環境整備に取り組み多くの保護者・地域ボランティアの参加を得て、垣根の剪定作業や草刈り・除草作業を行いました。昨年度購入したリヤカーがゴミの収集で活躍しました。



また、ゴーヤカーテンづくり等にも取り組みました。小さかったゴーヤが3階の窓まで達しました。

地域との連携強化及び、学校と地域の活性化を図る取組として、北中敷地内にある学校菜園を指導と管理を兼ね地域に委託し、育て収穫した野菜を使った収穫祭を昨年より実施しています。今年度も地域のボランティア・PTAの協力で、夏と秋、年2回実施しました。毎回地域からは、20から30名のボランティア参加の協力があり、生徒・保護者を加えると250名を超える参加を得、いろいろな人たちとのコミュニケーションの輪が広がり、新しい触れ合いが誕生しました。

12月には、地域防災を考える一つとして、防災まちづくりコンサルタントの井上浩一氏を招き「子どもたち・学校・地域を守るために ～地域で取り組むこれからの防災対策～」と題して講演会を実施しました。

**3. 成果と課題**

学校菜園の管理を地域の方々をお願いしたことで、多くの地域の方が学校を訪れ、生徒達の見守りや安全対策にも繋がりました。

環境整備・収穫祭・防災講演それぞれを別々に単発で実施した状態です。来年度は、これらを連携させ、校区クリーン活動と夏の収穫祭、秋の収穫祭を防災炊き出し訓練として位置づけた防災訓練へと繋げていければと考えています。また、学校・園と地域の橋渡し役であるコーディネーターを中心に、地域人材・ボランティアの登録を進めなければならないと思います。

事業名

自ら学ぶ力と表現力

目標

体験活動で体や心を通して学ばせ「伝え合う力」を育てる。

1. 取組の視点

本校区は、高齢化が進む地区や新しく開発された町が出来つつある地区があり、それぞれが抱える生活の課題も多様で、学校と地域・家庭の接点がなかなか見いだせず、連携を基にした活動の在り方が大変難しいです。また、校区がいわゆる「ふるさと」として成熟していません。

このような課題を解決していく方途として、これまで実施を続けている事業については更に発展させ、体験的な活動を通して自分自身や地域の課題について考え、自分の生き方や生活に直接かかわる学習を創造し、自分自身や自分の生き方や生活に直接かかわる課題に対して取り組み、それを地域にまで広げていきます。

2. 取組の概要

昨年度までの取組を発展させ、1年生では地域発見の取組として世界遺産学習も兼ねた、奈良まち散策を実施しました。また、障害者理解学習では、盲目で車

椅子生活をしながら、自らの世界観を人間味溢れる音楽で伝える方



の講演から、その心を感じ取ることができました。

2年生では、キャリア教育の一環として、50事業所で3日間の職場体験に取り組みました。3年生

では、性教育として「自分のために、皆のために、生と性について考えてみよう」というテーマで取り組みました。奈良県助産師会の出前講座



(ハートポケット)として助産師を招き講演・ビデオによる学習をしました。

環境美化活動の一つとして、生徒会でボランティアを募り、花壇の整備と学校周辺の除草作業に取り組みました。また、文化祭や体育大会、



3年生を送る会等の行事では、それぞれの企画実行委員会が中心となり、行事の企画運営に取り組みました。

3. 成果と課題

さまざまな体験学習をとおして、自分自身や地域の課題について考え、自分自身を見直すことが出来、事業のテーマとしている「伝え合う力」を磨き、「自ら学ぶ力と表現力」を育む機会となりました。特に文化祭と体育大会は登美北の2大行事として位置づけられ、その取組を保護者だけでなく地域へも広く公開し、学校が地域づくりの一助となるべく取り組んでいます。また、その成果が学校の資源・文化として継承され、生徒の笑顔や涙などから共に学ぶ意欲とつながっていることが感じ取れます。これらのことを次年度も「地域で決める学校予算」を活用し更に進めたいです。

今後も、あらゆる教育活動を通じて、「対話力」「表現力」を培い、自らの考えを表現する力と、他人の考え方を理解する力の育成を図るとともに、地域と共に動き、働く機会を積極的に捉え、参加を奨めたいと考えています。

事業名

地域で育む心豊かな登美小っ子

目標

地域の方とのふれ合いの場を通し、心豊かな子どもを育てる。

1. 取組の視点

本校が地域コミュニティの核として積極的に地域人材を発掘し、講師（ゲストティーチャー）として、またボランティアとして積極的に学校に足を運んでもらい、学校の取組に協力してもらうよう計画しました。その結果、子どもたちの体験活動を充実させたり、地域の輪と和を広げたりすることにつながると考えました。

2. 取組の概要

まず、環境整備（花の植えつけ等）のボランティアを募り、校舎南面の花壇にゴーヤを植えました。6月から9月にかけて生育しましたが、夏休みの水やりはボランティアや保護者、子どもたちが行いました。できたゴーヤは自由に収穫をしてもらいました。また、食育の一環としてゴーヤを食材にしたレシピを全校に募集して、たくさんの応募をいただきました。

これらはホームページに掲載しました。



図書っ子クラブのみなさんには、年間を通して、本の修理や、休み時間に「登美小ふれあいルーム」を開放しての本読みの見守り活動をしていただきました。

おはなしの森のみなさんには、定期的に朝の時間を利用して、教室での読み聞かせをしていただ

きました。これらの活動と同時に、学校は昨年度に開設した「登美小ふれあいルーム」の蔵書を充実させるため、絵本を中心とした図書を購入しました。



3. 成果と課題

ゴーヤ作りの活動では、学校と地域や保護者が一体となって活動できました。またこの活動を食育や、節電の啓発へとつなげていきました。来年度も続けていこうと考えています。

読み聞かせ活動や図書の見守り活動は、子どもたちの読書への意欲につながりました。2学期に実施したアンケートでは、昨年度に比べて子どもたちの読書の時間が増えたことがわかりました。

また、地域の人材を活用した講師（ゲストティーチャー）の招聘については、本年度当初の計画どおりには実施できませんでした。地域人材の発掘がなかなか進まなかったのが原因と考えられますが、もう少し学校の取組を広く知ってもらう手だてを考えなくてはならないと考えます。

また、コーディネーターに関しても、同じ方に負担が集中してしまっているため、これも今後の課題と考えます。

事業名

瞳キラキラ 心わくわく 新しい出会い、発見をもとめて

目標

- ・子どもたちが生き生きと活動できる空間の設営《中庭改修作業》に取り組む。
- ・地域教育力を効果的に活用して、体験的学習や集団的活動を通して生きる力を培う。

1. 取組の視点

子どもたちが瞳を輝かせ、日々の学習で身につけてきた基礎的な知識や技能を活用し、心をわくわくさせながら主体的に学習や様々な活動に取り組む態度を養うためには、地域の人たちとの関わりを深めながら、新しい出会いと発見を求めて体験的な学習や体験的な活動の充実が必要であると考えました。

2. 取組の概要

生活科や総合的な学習の時間および児童活動等においてゲストティーチャーを招き、生きてはたらく力を身につけさせるための体験的学習や体験的活動の充実を図りました。また、栽培活動や奉仕活動を通して働く喜びや奉仕の精神を学び、実践する力を育てるための取組を行いました。

【全校】

- ・中庭を改修し『ひがしとみフラワーガーデン』と名付け大型花壇を設営しました。



・校内音楽会を開き、日頃の練習の成果を発表しました。校内作品展では互いの取組を伝え合い鑑賞し合いながら、豊かな感性を養いました。保護者や地域の方々の出席も大変多く高い評価をいただきました。

・お話の会の方々を招き、本の読み聞かせを行いました。巧みな語り口に、子どもたちはお話の世界に引き込まれ読書への関心を高めていくこと

ができました。

【学年グループ】

・低学年は、「英語で遊ぼう」と題し、2回にわたってゲストティーチャーを招き、楽しく英語活動を行いました。また、人形劇を通して表現活動の学びにも触れることができました。

・中学年は、社会科や総合的な学習の時間に「花器作り」「福祉体験」「餅つき・かき餅作り・かき餅焼き」等の体験的学習や体験的活動を行いました。



・高学年は、総合的な学習の時間において、日本の伝統的な茶道を通して礼儀作法を学ぶ「お茶会」を体験しました。

3. 成果と課題

子どもたちは、新しい気づきや発見に目を輝かせ、学習を進めることができました。活動を通して思考力、判断力、表現力などを高めることができました。また、地域の方々やそれぞれの分野で活動されているゲストティーチャーの方々とのかわりやふれあいを通して、意欲的・主体的に学びを深めるとともに、新たな自分との出会いをすることもできました。

外部評価においても、「子どもたちにとってまたとない体験と出会いをすることができている。外部人材も豊富で適切に招致されている。」と、高い評価を得ることができました。

事業名

わくわく、どきどき、夢いっぱい幼稚園

目標

様々な感動体験をする中で豊かな心や意欲を育て、たくましく生きる幼児の育成

1. 取組の視点

近くに大型店舗や駅などがある交通量の多い地域や、公園や閑静な住宅街や集合住宅がある地域が入り交じっています。家庭では核家族化・少子化、子どもたちは室内遊びも多くなりがちです。また転勤などで人の流失もあり、人との関わりが希薄になりがちになっています。そして、実体験の不足がみられます。そこで地域の方々・保護者ボランティアの協力を得て、様々な実体験をすることで、感動体験を積み重ね、豊かな心を育んだり、意欲的に活動したくましく生活する幼児を育てたいです。

2. 取組の概要

年間を通して地域の方による「お話の会」では、回を重ねることで集中して話を聞く態度が育ってきました。年長対象の書き方教室は基礎からわ



かりやすく教えていただき、長時間も熱心に取り組む姿がみられました。保護者からも好評をえています。地域の中学生所属のサッカーチームによるサッカー教室は異年齢との触れ合いや、スポーツの楽しみを体感することができました。中学生との試合では自分の力を全部出し切り取り組む姿が見られます。地域の人形劇団「おもちゃ箱」主催の人形劇は保護者・未就園児も一緒に楽しむことができました。目の前で見ることによって一層感動

を大きくしました。地域の方による音楽紙芝居は、手作りの「かさじどう」の紙芝居・ピアノに合わ



せて合奏をし、園児全員楽しみ、心なごむことができました。地域の高齢者施設「エリシオン」との交流は核家族で高齢者となかなか接することのできない幼児にとって良い機会です。高齢者に歌を聞いてもらったり、わらべうた遊びをして触れ合うことができるようになってきました。小学校・中学校との交流を年間を通して実施し、異年齢の人に親しみをもつことができ、あこがれと期待をもつことができました。園の環境として花の苗を植えたり親子で野菜栽培をし、その美しさに感動したり、親子で野菜の生長を見守り、親子共々感動を味わうことができました。また地域や保護者に子どもたちの園の様子を写真で知らせたり、ホームページに写真をのせるなどしています。保護者の方も大変興味深く見ていただく姿が見られます。

3. 成果と課題

地域や人との関わりが少ない地域ですが、地域の方の協力で様々な体験をしたり教えていただくことで子どもたちは多様な感情を持ち意欲的に活動しようとする姿が育ってきました。また自分たちの地域の良さを肌で感じるようになってきました。

事業名

ふれあいいっぱい 楽しい幼稚園

目標

子育て支援の拠点としての幼稚園作りを目指す。

1. 取組の視点

地域に育つ子どもの育成と子育て支援の拠点としての幼稚園作りを目指すため、保護者や地域の人々とのつながりを深め、感動体験を積み重ねながら取り組みを進めてきました。

- ・ 地域の方々との交流
- ・ 未就園児との触れ合い
- ・ 保護者保育参加
- ・ 小学校・中学校との連携

などを通して、豊かな心とたくましい体を育むことに重点をおき実践してきました。

2. 取組の概要

【地域の方やゲストティーチャーとのかかわり】

○お話広場



月一回程度、卒園児の保護者によるお話広場をひらいてもらっています。お弁当の後、2～3の大型絵本や紙芝居を読んでもらいます。

回を重ねるごとに「おもしろかったなあ」「もっと、読んでほしい」と、楽しんでいます。

○サッカースクール



学期に一回程度サッカークラブの中学生がサッカーを教えに来てくれます。照れながらも優しく教えてくれる中学生のお兄ちゃん達に親しみをもち、元気いっぱい園庭を走り回っていました。

回を重ねるごとに「おもしろかったなあ」「もっと、読んでほしい」と、楽しんでいます。

○不思議実験教室



ゲストティーチャーをむかえいろいろな実験を見せてもらいました。日頃見ることができな

い不思議な現象に目を輝かせている子ども達でした。

【保護者保育参加】

○親子絵本作り



子ども達が好きな絵をかき、保護者が子どもから聞き取ったお話を書き留めて親子で絵本を作りました。親子

で一つのものを作り上げる活動を通して親子の絆が深まったように思います。その他保育参加をしてもらう機会を多く取り入れることで、園教育と幼児理解につながったと思います。

【小中学校との連携】

○ふれあいコンサート



中学校に「ふれあいコンサート」で吹奏楽を聴かせてもらいました。聞いたことのある曲と一緒に口ずさみながら楽しい時

間を過ごせました。小学校とも年間を通じて数回交流し、小学校に親しみを感じたりふれあいを楽しみました。

3. 成果と課題

地域の方々やゲストティーチャー、保護者の方々や小中学校と連携し様々な感動体験をすることができました。子どもたちは、いろいろな人との触れ合い、多様な経験をすることで、意欲が生まれ、何事にも主体的に関わろうとする様子がみられるようになってきました。また、友だちや未就園児への思いやりの気持ち、自分を取りまわりの人々への親しみや感謝の気持ちが育ってきています。今後も地域、家庭、園が協力し、地域に育つ子どもの育成のため、内容の充実を図っていききたいと思います。